

私立大学研究ブランディング事業

平成28（2016）年度の進捗状況

学校法人番号	131095	学校法人名	立教学院		
大学名	立教大学				
事業名	インクルーシブ・アカデミクス—生き物とこころの「健やかさと多様性」に関する包摂的研究				
申請タイプ	タイプB	支援期間	5年	収容定員	16600人
参画組織	理学部、現代心理学部				
事業概要	<p>加速するグローバル社会の中でストレスが増大している。本事業では、ストレスに対する分子・細胞レベルの解明を行う。また、メンタルヘルス問題が発現するメカニズムを心理学的に探究する。生命科学研究と心理学的研究を学際融合することで、生き物とこころの「健やかさと多様性」を包摂する新たな知見を得る。その成果として、精神的健康を高めるプログラムの提案を行い、立教大学のブランドとして社会に向けて発信する。</p>				
①事業目的	<p>本事業では、ストレスについて生命科学研究と心理学的基礎研究の融合研究を行い、生き物とこころの「健やかさと多様性」をめぐる生物・人間理解と生活機能改善に関する新たな見解を公表することを目的とする。この取り組みをつうじて本学が自学のブランドとして重視する「豊かな知性」と「折れない心」の育成を、科学的研究の側面から追究し補完・補強する。</p>				
②2016年度の実施目標及び実施計画	<p>本学が掲げるRIKKYO VISION2024が目指す「豊かな知性」と「折れない心」を本事業では科学的に追究し、インクルーシブ・アカデミクスをブランドとして確立すべく、総長統括の下、「生命科学・心理学融合」研究推進グループ、「学内ブランディング推進・点検」委員会、「学外評価点検」委員会、という事業実施体制を構築し、学内におけるブランディング戦略・事業全体それぞれのPDCAサイクルの整備・連携を進める。2016年度は、WEBを含む情報発信方法の検討・対応、シンポジウムの実施による成果公開、外部評価委員会の開催と自己点検・評価によるPDCAサイクルの強化を図る。</p> <p>研究に関しては、融合研究を行う基盤として、研究推進体制を整備する目標を掲げた。生命科学グループでは、ストレスの影響を生命科学的に解析する実験系の立ち上げを目標とし、分子から個体までを網羅するような解析体制の立ち上げを行うこととした。一方、心理学グループでは、メンタルヘルス問題の発現過程でヒトの知覚や認知、態度・行動に生じる変化を測定する指標の探索・検討を目標とした。そして、心理学的な枠組みにより、そのような変化を測定する指標の探索・検討、基礎実験を行うための課題の設計、研究体制の整備を進める計画とした。</p>				
③2016年度の事業成果	<p>本年度の事業成果は、以下の通りである。</p> <p>大学の情報発信・広報体制として、本学ウェブサイトのトップページに本事業のホームページを開設し、広く社会に知らせる体制を構築した。さらに、マスコミ懇談会での総長による事業説明や、当事業に関するシンポジウムを開催し、外部講師による講演、本事業の研究者による進捗状況と成果の報告を行った。</p> <p>また、大学のブランディング戦略においては、RIKKYO VISION 2024で掲げている「豊かな知性」と「折れない心」を育む人材を育成することを科学的に追究し、本学のブランド力を高めることを目標に、「豊かな知性」に関しては文理横断型の研究組織の構築を行い、「折れない心」に関してはストレスとメンタルヘルスの研究に着手した。</p> <p>その研究に関しては、生命科学グループにおいてストレスの影響を細胞・個体レベルで解析する実験系、ストレスと免疫・神経系の関連を解析する実験系、そして様々な状況下のヒトから採取するサンプルを解析する系の立ち上げを行った。一方、心理学グループにおいて母体となる心理学科の多様性を生かして、5つの研究班を組織するとともに、実験課題の作成、総説論文の作成、フィールドでのネットワークづくりを行った。</p>				

<p>④2016年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価) ◆学内ブランディング推進・点検委員会(2017年4月27日開催)と自己点検・評価 学内ブランディング推進・点検委員会において、2016年度の融合研究の点検・評価とPDCAサイクルの促進、RIKKYO VISION 2024との連携、ブランド発信強化について点検と評価を行った。 2016年度は概ね計画通りに進捗している。研究の面では様々なストレス下での生化学的・生理学的変化に対する生命科学的解析体制の構築とメンタルヘルス問題の発現過程における心理学的変化の測定技法の確立に着手した。ブランディング発信の面ではホームページによる広報、シンポジウムの開催などを行った。初年度の目標は達成できたと考えられる。 【学内ブランディング推進・点検委員会】 [委員長]研究推進担当副総長、リサーチ・イニシアティブセンター長 [副委員長]財務・教学運営担当副総長、 [委員]総長室長、理学部長、現代心理学部長、財務部財務課長 総長室広報課長、総長室企画課長、総長室教学改革課長 [事務局]リサーチ・イニシアティブセンター</p>
	<p>(外部評価) ◆ 2016年度の外部評価委員会(2017年3月23日開催)と総合所見 当該事業開始初年度の評価として、個々の研究グループの成果は、概ね順調に推移していると評価できる。次年度以降は、本事業の特徴である生命科学と心理学の融合と統合を確実なものとするべく、申請段階の年次計画を念頭に置きつつも、新たな切り口の模索を開始する事が、大学全体のブランディング強化に繋がると考えられる。 【外部評価委員】 [委員長]岡野栄之(慶應義塾大学医学部長) [委員] 鍋島陽一(公益財団法人先端医療振興財団先端医療センター長) 吉田秀郎(兵庫県立大学大学院生命理学研究科教授) 前本達男(国保旭中央病院小児科/NPO法人コスモスの花理事長) 岡本泰昌(広島大学大学院医歯薬保健学研究院准教授)</p>
<p>⑤2016年度の補助金の使用状況</p>	<p>事業経費の執行については学内ブランディング推進・点検委員会において、ブランディング事業全体の方針確認と各年度の事業計画の承認、執行状況報告を行う管理体制を整えている。 2016年度は、承認された事業計画に基づいて適切な執行を行った。 大学のブランディング戦略全体における成果発信のためのホームページの開設費用、シンポジウム開催費用、その広報(ポスター等)費用などに使用した。 研究においては、生命科学グループにおいて、ストレス研究を加速させるための実験機器、用品、消耗品などを購入した。 心理学グループでは、既存の設備や実験機器を有効活用しながら、主として研究体制整備のために機器備品・用品および実験用品の購入を行った。 その内訳は以下の通りである。 ■研究費 [消耗品費]試薬・文具等：6,700千円 [用品費]PC、カメラ、顕微鏡カメラ、ソフト等：2,810千円 [研究用機器備品]微量高速遠心機、薬用冷蔵シャーケース、解析システム等：18,200千円 [図書資料費]書籍等：350千円 ■広報・普及費 [報酬・手数料]HP開設費、外部評価、講師謝礼：500千円 [旅費]外部評価委員旅費：140千円 [印刷費]要旨集・ポスター印刷：100千円 ■その他 [兼務職員人件費]研究支援従事者人件費：200千円</p>